

令和2年3月4日

沖縄県議会議長

新里米吉殿

派遣議員

団長

仲宗根 悟

末松 文信

照屋 守之

照屋 大河

親川 敬

新垣 清涼

瀬長 美佐雄

渡久地 修

當間 盛夫

「金武町における照明弾落下事故に関する意見書」及び「同抗議決議」  
の要請議員団報告書

上記のことについて、別紙のとおり報告します。

## 別紙

「金武町における照明弾落下事故に関する意見書」及び「同抗議決議」  
の要請議員団報告書

### 1 派遣議員

団長	仲宗根	悟		
	末松	文信	照屋	守之
	照屋	大河	親川	敬
	新垣	清涼	瀬長	美佐雄
	渡久地	修	當間	盛夫

### 2 派遣目的

令和元年第6回議会(定例会)の12月20日の会議において議決された上記の意見書及び抗議決議の趣旨を関係要路に要請するため。

### 3 派遣期間

令和元年12月23日(月)(1日)

### 4 要請日程

別紙のとおり

### 5 要請概要

団長が意見書及び抗議決議の趣旨を説明した後、各団員からは、事故原因の徹底的な究明と実効性のある再発防止策を講じるとともに、県民に公表すること、住宅地付近での訓練、演習を恒久的に中止すること等について強く要請した。

### 6 要請に対する答弁の要旨(要請順)

#### ○ 沖縄防衛局長 田中利則

本件は12月5日から6日にかけて金武町伊芸区において、米軍の使用済みの照明弾3個が見つかったものである。これについて私どものほうから米側に対して照会をしており、米側からの回答は一照明弾は米軍の訓練中に使用されたものであり、地元住民の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫びする。現在、発生原因を調査しており、米側として地域の安全を確保するために必

要な措置をとる。レンジにおける照明弾の訓練を一時中止した。照明弾に有害な物質は含まれていない。こういった回答があった。

幸いなことに、被害については確認がされていないが、御指摘いただいたように、こうした事案が発生することによって地元の皆様に御不安、御懸念というものを与えるものであると思っている。私どもとしては、米側に対して速やかな原因究明を求めるとともに、適切な再発防止策がとられるまでの間は、同種の照明弾の使用は控えるよう申し入れた。

その後、米側から説明があったものとして、当時そのキャンプ・ハンセン内のレンジ2において、合計12個の60ミリ迫撃砲照明弾が発射され、そのうちの3つの照明弾が施設区域外に落下し、その後発見されたという説明があった。また、本件については強風により流された照明弾が米軍施設区域外に落下したものと結論に至ったということであり、先週18日に、沖縄県、それから金武町を初めとする関係自治体に情報を提供した。

米側からの再発防止策としては、軍内の規則を変更して、照明弾を使用した訓練の実施基準となる最大風速というものを下方修正している。さらに、レンジにおける風の状況をより正確に把握するために使用する機器を改良するということである。

これらの再発防止策を確実に実施した後に訓練を再開したいと、こういった説明を受けている。

私どもとしても、こうした再発防止策についてきちんと実施をした上で、隊員の教育を徹底した上で、安全な訓練の再開ということを求めているところである。

いずれにしても、日米同盟の維持、強化、それから在日米軍の安定的な駐留については地元の皆様方の御理解と御協力というものは大前提であるので、沖縄防衛局としても、米側に対して訓練における安全の確保に万全を期すよう強く求めてまいりたいと思っている。

(質疑応答)

Q 我々は訓練場が非常に狭小であるということで、住宅地付近での訓練、演習を中止することを求めている。最大風速の下方修正と機器の改良という内容で訓練を再開するというメッセージを伝えてきているが、防衛局は、最大風速をどこまで下方修正して、それ以上の風が吹くと訓練をやめるというような具体的な内容や機器の精度など、その辺を確認しながらやりとりしたのか。

A 米側との関係でさまざまなやりとりをしているが、その内容の詳細について

ではお答えすることは控えさせていただきたい。

米側の説明としては、レンジ規則の詳細はお答えすることはできないが、最大風速を下方修正したことに加えて、より正確に風速を計測できるように機器を改良—そういった説明を受けている。

米軍の訓練に当たって、安全の確保というものは大前提であるので、引き続き米側に対して、こうした訓練を実施していく上での安全の確保に万全を期すよう求めてまいりたい。

Q 県議会の決議は恒久的に訓練を中止してくれという要求だけれども、防衛局として中止を求めなかったのか。

A 御承知のように、この本件事案が発生した後、米側においてはこの事案が発生した原因を確認するまでの間、レンジにおける照明弾の訓練を一時中止をしたという説明は受けている。他方、それ以外について中止をするという説明は受けていない。さらに、私どものほうから全ての訓練を中止をするようなことの申し入れはしていない。

### ○ 第3海兵遠征軍司令官 ステーシー・クラディ中将

第3海兵遠征軍司令官不在のため、ニール・オーウェンズ海兵隊太平洋基地政務外交部G-7部長へ手交した。

(海兵隊太平洋基地政務外交部G-7部長 ニール・オーウェンズ)

まず、一番初めに伝えたいのは、この件に関して皆様に不安を与えてしまったことに対しておわび申し上げる。我々は、安全に訓練と運用を行うことに全力を尽くしており、今回の件に関してとても真摯に受けとめている。

我々としては金武町の皆様、沖縄県民の皆様とのよりよい関係を構築するために、全力を尽くしたいと思っている。

今回の件に関しては強風が原因であったと聞いている。その結果をもとに、我々は訓練中の規範を下方修正し、60ミリ照明弾の訓練ができるように修正している。また、設備の改良を行い、正確な風速がはかれるよう対策を講じている。こうした改善策をしっかりと施した後に、この60ミリ照明弾の訓練をするためのスケジュールが調整可能となる。

我々は日米安保で約束された義務、日本及びアメリカを守るためには、やはり日米同盟を保たなければならず、そのため、訓練はずっと行わなければならない。もしこの訓練場での訓練ができなくなってしまうと、練度が下が

ってしまうということになるので、それは避けなければならない。

(質疑応答)

Q 訓練の規範が合っていなかったということだけれど、そもそもこの訓練場自体小さいのではないか。

A 我々が使用を許可されている現状としては一訓練に対しては適切な大きさだと考えている。

我々海兵隊はいかなる場所でも訓練をしなければならないということもあって、アメリカ本国で行っているものとは違う条件で訓練を行っていることも多々あるかとは思いますが、訓練自体の内容としては、広さ的にはそれに対応した訓練をさせていただいている。

Q こんな小さな島で実弾訓練などをやるのは不向きだから、ここではやるべきでない。日本全国を見て、こんな住宅地の中で訓練しているのはここしかない。これはもう率直に言ってやめてほしい。本当に、この命を守る軍人として、そこに正面から向き合ってもらいたいと思う。

A 我々が訓練をする意味としては、やはり日米安保に基づく義務を果たさなければならないというところがある。

## ○ 在沖米国総領事 ロバート・ケプキー

在沖米国総領事不在のため、ヒラリー・ダウアー首席領事へ手交した。

(在沖米国首席領事 ヒラリー・ダウアー)

本日は総領事館にお越しいただき、ありがとうございます。地元の皆様の懸念を沖縄県議会議員から直接お伺いすることは、我々にとっても大変重要な機会である。本日は総領事が休暇中のため、首席領事の私が抗議を受けさせていただく。

3発の照明弾が提供施設外に落下し、地域の皆様に不安を与えたことについては申しわけない。

コミュニケーションは本当に重要なことだと思う。私が米軍に相談して、調査結果がわかり次第、もう一度報告させていただきたいと思う。

軍のことについて約束はできないが、定期的にコミュニケーションとか意見交換をすることは、非常にいい考えだと思う。

(質疑応答)

Q 県民は爆音だけではなくて、空から窓や部品が落ちたり、今度は照明弾が落ちてきて、とても不安がある。米軍も不安を与えないようにしたいと言っているけれども、狭い沖縄でこれだけ多くの訓練をすることが、事故が多く発生する原因と思う。米軍は風速についても下方修正したと言うけれども、数値を言わない。P F O Sでも基地内であふれた、流してしまった、全部回収したと言っているけれど、しかし依然として下流ではP F O Sが混入した水が出てきている。それを調査させてくれないのが問題である。

だから、できることは一情報を県民に知らせてほしい、取り組み状況を、どういうことをどういうふうに改善した。だから心配しないでくれっていうのはきちんと言わないとわからない。

A いつもここに要請に来て、御意見とか懸念を率直に米軍、ワシントンDCにある国務省、国防総省にお伝えすると総領事が話をするが、きょうの要請についても報告する。それに加えその2点について米軍に相談し、その情報があれば、もう一度報告したい。約束はできないが、できる限り相談していく。

Q 県民感情からすると米軍が沖縄でやりたい放題をしている。訓練にしても一例えば頻発するこの事件・事故にしても、アメリカは何をしているんだと。領事館を含め国務省は本当に今のこの沖縄で起こっていることを、今の沖縄の現状ということをしっかりと伝えているのかという疑問がある。

来年、戦後75年になるが、アメリカは日本を含め沖縄を中心にずっと駐留している。もうそろそろ一例えば国務省側からでも新しい日米のあり方を一アメリカもこれだけの期間、日本に駐留しているわけだから、何か進化的なものがないのか、その辺を聞きたい。

A もちろん、ワシントンDCの国務省でも国防総省でも、沖縄県民の懸念、心配など、我々はよく存じている。それから日米地位協定について、私の知る限り、変えるつもりはない。しかし、少なくともその情報を交換できれば一意見交換ができれば結構有効だと思う。最初の段階として、我々がもうちょっと定期的に情報を共有したほうがいいので、第1段階としてやってみたい。それに加えて、皆様の日米地位協定についての意見を関係者に伝える。

○ 外務省沖縄事務所特命全権大使（沖縄担当） 川 村 裕

金武町の照明弾の民間地への落下事故に関して、12月5日から6日にかけて

て米軍の照明弾が合計3個、金武町の伊芸地区において発見されたということで、こういった事案の発生というのは地元の方々に不安を与えるものであって、本当に遺憾であると思っている。米軍のほうからも地元住民の皆さんへの謝罪の表明があったということは承知している。また、事案発生を深刻に捉えており、キャンプ・ハンセンのレンジにおける照明弾訓練を一時中止することを含めて、地元住民の安全を確保するために必要な措置をとるなどの説明があった。このような事案は甚大な事案につながりかねないと我々も認識しており、米側に対して原因究明、再発防止等を申し入れている。

米側の本件事案に関する調査結果及び再発防止策に関しては、原因としては強風により流された照明弾が米軍の施設区域外に落下したという結論であると説明を受けている。また、再発防止策としては、軍内の規則の変更により照明弾を使用した訓練の実施基準となる最大風速を下方修正したということ、さらに、風の状況により正確に測定するため使用機器をかえるようにすると。このような説明を受けている。

米軍の訓練実施に当たっては、地元の方々の安全確保が大前提であり、引き続き安全確保に万全を期すよう、我々としても米側に対して求めていきたいと考えている。

(質疑応答)

Q 事件・事故をなくすための一つの方法として、米軍、国、県で構成する協議会の設置をずっと求めてきた。そこでいろいろな情報交換やコミュニケーションが図られることによって、事故あるいは事件の抑止につながるんじゃないかということ、この間ずっと言い続けてきた。その辺についてどうにお考えか。

A 米軍の運用に係ることなので、なかなか難しいところがあるのではないかなと思うが、一方、公務外の治安に関しては、我々は海兵隊と一飲酒にかかわる事案について対策会議を開いており、何カ月かに1回とかそういう形で決まっているわけではないが、引き続きそういった対策を講じる、防止をするための話し合いというものは続けていきたいと考えている。

Q いつも大使は米軍の安定的駐留のためには県民の理解、安全確保が大前提だと言っているが、大使が県民の理解を得るために、確保するためにどんなことをやられてきたのか。

A もちろん事件・事故が起きないようにすることが重要だと思っているが、遺憾ながら発生する場合には米軍のほうに強く申し入れている。それ以外で

も、特に地域の方々とのコミュニケーションが重要だということは、私も口酸っぱく申し上げている。特に地域の首長さんとの関係をきちんと重視してほしいということを、繰り返し申し入れさせてもらっているところである。

以上



別紙

要 請 日 程

月 日	曜日	時間	要 請 先 等	場 所
令和元年 12月23日	月	11:00 ） 11:30	沖縄防衛局長 田 中 利 則	沖縄防衛局 会議室
		13:30 ） 14:00	第3海兵遠征軍司令官 ステーシー・クラードイ (第3海兵遠征軍司令官不在のため、ニール・オーウェンズ海兵隊太平洋基地政務外交部G-7部長に手交)	キャンプフ ォスター内 政務外交部 会議室
		14:45 ） 15:15	在沖米国総領事 ロバート・ケプキー (在沖米国総領事不在のため、ヒラリー・ダウアー首席領事に手交)	在沖米国領 事館会議室
		16:00 ） 16:30	外務省沖縄事務所特命全権大使（沖縄担当） 川 村 裕	外務省沖縄 事務所会議 室